

## 関市「データダッシュボード」について

### 背景

- ・2020 年から厚生労働省でもデータ活用の検討、実施

庁内でデータ利活用の効果が検証され、データ分析業務が開始。

2022 年地方公共団体における統計データ利活用表彰「統計局長賞」受賞

2023 年 3 月庁内データ利活用基盤「関市データダッシュボード」公開、運用

2024 年 4 月 EBPM 推進のための庁内定期ヒアリング開始

- ・上記取り組みを構築したうえで、課題も顕在化

① 職員が気軽に利用できる環境が構築できていない

② 多くのデータソースをエクセルで整理して居るため更新が困難

③ 分析をした結果が共有できない、一時的なものとなる

・EBPM が進んでいない原因（データリテラシー、眠らせている庁内データ、スクラップ&ビルドできない行政評価）が判明→体制構築

具体的な取り組みとその成果(活用状況)

- ・職員がデータを利活用できる基盤を作成し、分析結果イメージを共有

・分析依頼のあった各事業課に対しヒアリングを行い、順番に段階的に進めるサイクルとした

- ・BI ツールを使用して、庁内の総合的なデータ利活用基盤「関市ダッシュボード」として構築

・「地域カルテ」も従来の PDF 形式ではなく、BI ツールを使用することで動的に把握できるように再構築し公開

- ・ダッシュボードの利用推進、使用方法啓発・研修

### 庁内外からの評価

- ・内製化によるスピード感と柔軟な対応

- ・庁内事業の状況把握、部局横断的な事業の推進

- ・職員のデータ利活用による政策制度向上

- ・データ鮮度の担保

- ・庁内版の目的は EBPM 推進、公開版は、オープンデータによる官民協働

課題として

- ・業務の属人化、庁内理解の醸成、ダッシュボードの利用簡便化、関市の適切な評価指標（KPI）の設定、分析ユースケースの増加と啓発